

4. 花き類

(1) きく

薬剤名	使用目的	使用方法	使用時期	使用回数	備考
エスレル10	開花抑制	全面散布（株全体がぬれる程度）	摘芯時又は定植後1週間以内及びその後10日～14日毎	3回以内（エテホン3回以内）	
オキシベロン粉剤0.5	さし木の発根促進及び発生根数の増加	さし穂基部（切り口から約1cm）に粉衣	-	1回（インドール酪酸1回）	
オキシベロン液剤	さし木の発根促進及び発生根数の増加	10秒さし穂基部浸漬	-	1回（インドール酪酸1回）	
		3時間さし穂基部浸漬	-		
		5～10秒さし穂全体浸漬	-		

注1) 使用回数の欄の記載は、収穫物への残留回避のため当該剤及びそれぞれの有効成分を含む農薬の総使用回数の制限を示す。

使用目的	薬剤名	使用方法	使用上の留意点
さし木の発根促進及び発生根数の増加	オキシベロン粉剤0.5 (インドール酪酸0.5%)	1. さし穂基部（切り口から約1cm）に粉衣。 (製剤10g当り処理本数) さし穂の直径8～6mmは約100～200本、6～4mmは約200～300本、4～2mmは約300～400本、2mm以下は約400～500本	
	オキシベロン液剤 (インドール酪酸0.4%)	1. 以下のいずれかを行う。 ・100～200倍液（10～5ml/水1ℓ）：5～10秒さし穂全体浸漬 ・2倍液（1,000ml/水1ℓ）：10秒さし穂基部浸漬 ・500～1,000倍液（2～1ml/水1ℓ）：3時間さし穂基部浸漬	
開花抑制	エスレル10 (エテホン10%)	1. 500～1,000倍で摘芯時又は定植後1週間以内及びその後10～14日毎全面散布（2～10ml/株、全体がぬれる程度）3回以内	

・参考農薬

薬剤名	使用目的	使用方法	使用時期	使用濃度又は希釈倍数	使用液量	使用回数	魚毒	蚕毒	備考
エスレル10	早期不時発蕾防止	全面散布（株全体がぬれる程度）	親株摘芯時	500倍	2～10ml/株	3回以内（エテホン3回以内）	A		きく（電照栽培）
ジベレリン水溶剤 ジベラ錠 ジベラ錠5 ジベレリン錠剤 ジベレリン ジベレリン粉末 ジベレリン液剤	開花促進、草丈伸長促進	茎葉散布	生育期	ジベレリン25～100ppm	50～100ℓ/10a	2回以内（ジベレリン2回以内）	A		
スミセブンP液剤	節間の伸長抑制（矮化）	茎葉散布	摘芯10日後頃	25～50倍	5～10ml/5号鉢（原液0.1～0.2ml/5号鉢）	2回以内（ウニコゾールP2回以内）	B		きく（ホットマム）

薬剤名	使用目的	使用方法	使用時期	使用濃度 又は 希釈倍数	使用液量	使用回数	魚毒	蚕毒	備考
タチガレン液剤	発根促進	土壌灌注	挿し芽直後	1000 倍	5～10 ℓ/ m ²	1 回(ヒト [®] ロキソ キゾール 1 回)	A		
ビーナイン顆粒水溶 剤	節間の伸長抑制	茎葉散布	生育期	500～5000 倍	50～150 ℓ/10a	4 回以内(タ [®] ミ ジット [®] 6 回以 内)	A		きく(切 花 用)(施設 栽培)
			摘芯後 10 日 ～7 日又は定 植 3 日後か ら発蕾初期	200～400 倍	5～10 mℓ/5 号鉢	3 回以内(タ [®] ミ ジット [®] 3 回以 内)			きく(ホ ットマ ム)(施設 栽培)
	花首の伸長抑制		発蕾期～摘 蕾期	500～5000 倍	50～150 ℓ/10a	2 回以内(タ [®] ミ ジット [®] 6 回以 内)			きく(切 花 用)(施設 栽培)

注1) 農薬のラベルに記載されている注意事項を必ず読む。

注2) 使用回数の欄の記載は、収穫物への残留回避のため当該剤及びそれぞれの有効成分を含む農薬の総使用回数の制限を示す。

注3) 農薬登録上の作物名が標記の作物名と異なる場合、備考欄に記載した。

(2) りんどう

・参考農薬

薬剤名	使用目的	使用方法	使用時期	使用濃度 又は 希釈倍数	使用液量	使用回数	魚毒	蚕毒	備考
ジベレリン水溶剤	生育促進	茎葉散布	定植直前又 は定植 1～5 週間後	ジベレリン 100ppm	50～150 ℓ/10a	1 回(ジベレリン 2 回以内(但 し、種子への 処理は 1 回以 内、は種後は 1 回以内))	A		
ジベラ錠									
ジベラ錠 5									
ジベレリン									
ジベレリン粉末									
ジベレリン液剤	発芽促進	種子浸漬	は種前	ジベレリン 50 ～200ppm	-	1 回(ジベレリン 2 回以内(但 し、種子への 処理は 1 回以 内、は種後は 1 回以内))	A		

注1) 農薬のラベルに記載されている注意事項を必ず読む。

注2) 使用回数の欄の記載は、収穫物への残留回避のため当該剤及びそれぞれの有効成分を含む農薬の総使用回数の制限を示す。

注3) 農薬登録上の作物名が標記の作物名と異なる場合、備考欄に記載した。

(3) カーネーション

薬剤名	使用目的	使用方法	使用時期	使用回数	備考
オキシベロン粉剤 0.5	さし木の発根促進及 び発生根数の増加	さし穂基部(切り口 から約 1cm)に粉衣		1 回(イト [®] ル酪酸 1 回)	
オキシベロン液剤	さし木の発根促進及 び発生根数の増加	16～24 時間さし穂 基部浸漬 5 秒さし穂基部浸漬 又はさし穂 100 本あ たり 10 ml をさし 穂基部に散布			
ビーエー液剤	側芽発生促進	茎葉散布	側芽発生前	2 回以内(ペンゾル アミン 2 回以内)	
プレリュード液剤					

注1) 使用回数の欄の記載は、収穫物への残留回避のため当該剤及びそれぞれの有効成分を含む農薬の総使用回数の制限を示す。

使用目的	薬 剤 名	使 用 方 法	使用上の留意点
さし木の発根促進及び発根数の増加	オキシベロン粉剤0.5 (インドール酪酸0.5%)	1. さし穂基部（切り口から約1cm）に粉衣。 (製剤10g当り処理本数) さし穂の直径8～6mmは約100～200本、6～4mmは約200～300本、4～2mmは約300～400本、2mm以下は約400～500本	
	オキシベロン液剤 (インドール酪酸0.4%)	1. 以下のいずれかを行う。 ・200～400倍液（5～2.5ml / 水1ℓ）に16～24時間さし穂基部浸漬 ・2倍液（1,000ml / 水1ℓ）に5秒さし穂基部浸漬、又はさし穂100本当り2倍液の10mlをさし穂基部に散布	
側芽の発生促進	プレリユード液剤 (ベンジルアミノリン3.0%)	1. 側芽発生前に300倍液を株あたり6ml茎葉に散布	
	ビーエー液剤 (ベンジルアミノリン3.0%)		

(4) トルコギキョウ

・参考農薬

薬剤名	使用目的	使用方法	使用時期	使用濃度又は希釈倍数	使用液量	使用回数	魚毒	蚕毒	備考
ジベレリン水溶剤	生育促進	茎葉散布	生育期間中にロゼット化した時	ジベレリン50～100ppm	30～40ℓ/10a	1回(ジベレリン1回)	A		
ジベラ錠									
ジベラ錠5									
ジベレリン錠剤									
ジベレリン									
ジベレリン粉末									
ジベレリン液剤									

注1) 農薬のラベルに記載されている注意事項を必ず読む。

注2) 使用回数の欄の記載は、収穫物への残留回避のため当該剤及びそれぞれの有効成分を含む農薬の総使用回数の制限を示す。

(5) ストック

薬剤名	使用目的	使用方法	使用時期	使用回数	備考
ビビフルフロアブル	開花促進	茎葉散布	葉数10～14枚時とその7～10日後	2回(プロヘキサゾンカルシウム塩2回以内)	

注1) 使用回数の欄の記載は、収穫物への残留回避のため当該剤及びそれぞれの有効成分を含む農薬の総使用回数の制限を示す。

使用目的	薬 剤 名	使 用 方 法	使用上の留意点
開花促進	ビビフルフロアブル (プロヘキサゾンカルシウム塩1.0%)	1. 葉数10～14枚時とその7～10日後の2回1,000倍液(100ℓ / 10a)を茎葉散布。	1. 散布は所定の散布水量で茎葉部に均一にかかるようにする。 2. 他の農薬や葉面散布剤とは混用しない。 3. 処理により節間がやや伸びる傾向にある。

(6) チューリップ

・参考農薬

薬剤名	使用目的	使用方法	使用時期	使用濃度 又は 希釈倍数	使用液量	使用回数	魚毒	蚕毒	備考
オキシベロン液剤	花茎基部の伸長	1株あたり 1mℓを葉 間に滴下	第1葉の長 さが9~10cm の時期	20~40倍 (50~25 mℓ/水1 ℓ)	—	1回(インドール酪 酸1回)	A		
ジベレリン液剤	開花促進	筒状の葉の 中心部に滴 下	草丈7~20cm の時に7日 間隔	ジベレリン 400ppm	1球あたり 1mℓ	2回以内(ジベ レリン2回以内)	A		チューリッ プ(促 成栽 培)
フルメット液剤	花丈伸長促進及 び茎の肥大促進	ジベレリン 100ppm液 に加用、葉 筒内滴下処 理	草丈7~10cm 時	ホルクロルフェニ ン0.05~ 0.1ppm	—	1回(ホルクロルフェ ニン1回)	B		チューリッ プ(促 成栽 培)

注1) 農薬のラベルに記載されている注意事項を必ず読む。

注2) 使用回数の欄の記載は、収穫物への残留回避のため当該剤及びそれぞれの有効成分を含む農薬の総使用回数の制限を示す。

注3) 農薬登録上の作物名が標記の作物名と異なる場合、備考欄に記載した。

(7) シクラメン

薬剤名	使用目的	使用方法	使用時期	使用回数	備考
エスレル10	開花抑制	茎葉全面散布	花芽発達期(但し、 初回散布以降は20 ~21日間隔を開け る)	3回以内(エテホン3回 以内)	

注1) 使用回数の欄の記載は、収穫物への残留回避のため当該剤及びそれぞれの有効成分を含む農薬の総使用回数の制限を示す。

使用目的	薬剤名	使用方法	使用上の留意点
開花抑制	エスレル10 (エテホン 10%)	1. 花芽発達期以降、出荷の90 ~120日前までに、500倍液 を株当たり4mℓ散布する。 (初回散布以降は20~21日 間隔を開ける。3回以内)	1. 生育が不良な株に用いた場 合、生育抑制あるいは開花数 が減少することがあるため、 使用しない。 2. 最終散布日は7月下旬~8月 下旬とする。 3. 処理時期が遅れると出荷時の 開花数が減少するおそれがあ るため、最終散布は出荷を希 望する90~120日前を目安と する。ただし、地域及び品種 によって処理時期が異なるの で、十分注意する。 4. 薬剤処理後、一時的に枯死 葉、黄化葉、あるいは花卉の 緑化が認められることがあ るが、その後回復し品質には問 題ない。 5. シクラメンに本剤を初めて使 用する場合は、使用者の責任 において事前に薬効・薬害を 十分確認してから使用する。

・参考農薬

薬剤名	使用目的	使用方法	使用時期	使用濃度 又は 希釈倍数	使用液量	使用回数	魚毒	蚕毒	備考
ジベレリン水溶剤	開花促進	花蕾を含む 芽の中心部 に散布	9月中・下旬	ジベレリン1 ～5ppm	1株当たり 2～5 ml	1回(ジベレリン1 回)	A		
ジベラ錠									
ジベラ錠5									
ジベレリン									
ジベレリン粉末									
ジベレリン液剤									

注1) 農薬のラベルに記載されている注意事項を必ず読む。

注2) 使用回数の欄の記載は、収穫物への残留回避のため当該剤及びそれぞれの有効成分を含む農薬の総使用回数の制限を示す。

(8) カラー

・参考農薬

薬剤名	使用目的	使用方法	使用時期	使用濃度 又は 希釈倍数	使用液量	使用回数	魚毒	蚕毒	備考
ジベレリン水溶剤	生育促進	茎葉散布	花茎伸長期	ジベレリン 50ppm	50～150 ℓ/10a	1回(ジベレリン2 回以内)	A		
ジベラ錠									
ジベラ錠5									
ジベレリン錠剤									
ジベレリン									
ジベレリン粉末									
ジベレリン液剤	生育促進	球根浸漬	植付時	ジベレリン 50ppm	-	1回(ジベレリン2 回以内)	A		
ジベレリン錠剤									
ジベレリン液剤									

注1) 農薬のラベルに記載されている注意事項を必ず読む。

注2) 使用回数の欄の記載は、収穫物への残留回避のため当該剤及びそれぞれの有効成分を含む農薬の総使用回数の制限を示す。

(9) プリムラ

・参考農薬

薬剤名	使用目的	使用方法	使用時期	使用濃度 又は 希釈倍数	使用液量	使用回数	魚毒	蚕毒	備考
ジベレリン水溶剤	開花促進	株の中心部 に散布	11月上旬頃 の花蕾出現 直後	ジベレリン10 ～20ppm	1株あたり 2～5 ml	1回(ジベレリン1 回)	A		プリムラ (マ ラコ イデ ス)
ジベラ錠									
ジベラ錠5									
ジベレリン									
ジベレリン粉末									
ジベレリン液剤									

注1) 農薬のラベルに記載されている注意事項を必ず読む。

注2) 使用回数の欄の記載は、収穫物への残留回避のため当該剤及びそれぞれの有効成分を含む農薬の総使用回数の制限を示す。

注3) 農薬登録上の作物名が標記の作物名と異なる場合、備考欄に記載した。

(10) ペチュニア

・参考農薬

薬剤名	使用目的	使用方法	使用時期	使用濃度 又は 希釈倍数	使用液量	使用回数	魚毒	蚕毒	備考
ビーナイン顆粒水溶剤	節間の伸長抑制	茎葉散布	定植後 2 週間目	100～200 倍	50～150 ℓ/10a	1 回(ダミジツト [®] 6 回以内 (但し、水溶剤は 4 回以内)	A		ペチュニア(施設栽培)

注1) 農薬のラベルに記載されている注意事項を必ず読む。

注2) 使用回数の欄の記載は、収穫物への残留回避のため当該剤及びそれぞれの有効成分を含む農薬の総使用回数の制限を示す。

注3) 農薬登録上の作物名が標記の作物名と異なる場合、備考欄に記載した。

(11) れんぎょう

薬剤名	使用目的	使用方法	使用時期	使用回数	備考
ヒットα13	休眠打破による発芽促進	切り枝全面散布又は切り枝浸漬	休眠覚醒期（促成開始期）	1 回(シナミト [®] 1 回)	れんぎょう (切り枝促成栽培)

注1) 使用回数の欄の記載は、収穫物への残留回避のため当該剤及びそれぞれの有効成分を含む農薬の総使用回数の制限を示す。

注2) 農薬登録上の作物名が標記の作物名と異なる場合、備考欄に記載した。

使用目的	薬剤名	使用方法	使用上の留意点
休眠打破による発芽促進	ヒットα13 (シナミト [®] 13%)	1. 休眠覚醒期(促成開始前) 15 倍液の切り枝浸漬	1. 促成開始時期は各産地の気温条件を考慮して行う。 2. 自然状態で休眠覚醒後の処理では、促成期間の短縮効果はないので、時期を逃さず処理する。 3. 浸漬時に薬液の付かない部分は効果がないので、むらのないように処理する。 4. 栽培中の作物に薬液がかかると薬害を生じるので、飛散しないようにする。残液は河川等に流さない。

(12) その他花き

・参考農薬

薬剤名	使用目的	使用方法	使用時期	使用濃度 又は 希釈倍数	使用液量	使用回数	魚毒	蚕毒	備考	
オキシベロン粉剤 0.5	さし木の発根 促進及び発生 根数の増加	さし穂基部（切り口か ら約1cm）に粉衣	6月～7月 （夏さ し）	（製剤 10gあたり 処理本 数）さし 穂の直径 8～6mm 約100～ 200本、 6～4mm 約200～ 300本、 4～2mm 約300～ 400本、 2mm以下 約400～ 500本	—	1回（イントール酪酸 1回）	A		ペゴニア	
ビーナイン顆粒水 溶剤	節間の伸長抑 制	茎葉散布	子葉展開 後	200～400 倍	50～150 ℓ/10a	2回以内（ガミジ ット4回以内）	A		はぼたん （施設栽 培）	
			鉢上げ後	—	—	—	—			
			定植後3 日～30日	100～200 倍	50～150 ℓ/10a	1回（ガミジ ット1 回）	A		ポインセ チア（施 設栽培）	
スミセブンP液剤	節間の伸長抑 制（矮化）	茎葉散布	摘芯10日 後頃	15～25 倍	5～10 mℓ/5号鉢 （原液0.3～0.5 mℓ/5号鉢）	2回以内（ウエコナ ールP2回以内）	B		ポインセ チア	
ルートン	挿木（挿苗）時 処理して発根 を促進する。	1) 挿木（挿苗）の基 部を3cmぐらい水にひ たしその部分にうすい 層になって付着する程 度に粉のまままぶす。 2) 或いは本剤を適量 の水でペースト状にね ってから挿木の切り口 にぬりつける。日陰干 で乾燥してから挿す。 この場合挿木（挿苗） にあまり多量に厚く塗 布しないようにすること。 上記の方法で処理し 挿しおわったら周囲 に土をかけてよく固め ておくこと。	—	—	—	—（1-ナチルアセアミド —）	A		花き（き く、ゼラ ニウム 等）	
オキシベロン液剤	さし木の発根 促進及び発生 根数の増加	12～24時間さし穂基部 浸漬	—	200～400 倍（5～ 2.5 mℓ/ 水1ℓ）	—	1回（イントール酪酸 1回）	A		花き類・ 観葉植物 （カーネ ーション、 きく 及びチュ ーリップ を除く）	
		5～10秒さし穂基部浸 漬	—	2倍 （1000 mℓ/水1 ℓ）	—					
ジベレリン水溶剤	発芽促進	種子浸漬	は種前	ジベレリン 50～ 200ppm	—	1回（ジベレリン1 回）	A		花き類 （りんど うを除く）	
ジベラ錠										
ジベラ錠5										
ジベレリン										
ジベレリン粉末										
ジベレリン液剤										
ジベレリン錠剤	発芽促進	種子浸漬	は種前	ジベレリン 50～ 200ppm	—	1回（ジベレリン1 回）	A		花き類	

注1) 農薬のラベルに記載されている注意事項を必ず読む。

注2) 使用回数の欄の記載は、収穫物への残留回避のため当該剤及びそれぞれの有効成分を含む農薬の総使用回数の制限を示す。

注3) 農薬登録上の作物名が標記の作物名と異なる場合、備考欄に記載した。